

広報紙54号 2025年4月1日

「TAMA市民塾」発行

〒183-0056 府中市寿町1-5-1

府中駅北第2庁舎6階

多摩交流センター内

TEL/FAX 042-335-0111

たまづさ

「星空」

市民塾 菅井昇

よく晴れた夜に空を見上げると、たくさんの星々が見られる。市街地や都市から離れると満天の星が私たちを圧倒する。まさに星降る夜と形容される。

約五年前、メソポタミアに住むシュメール人によって初めてその星々を繋げて星座を作ったといわれる。冬の代表星座のオリオン座（天の獵人）等、その同時期古代エジプトでもその多くが、ギリシャ神話などのロマンあふれる物語が秘められている。

ギリシャ神話によると、オリオン座のオリオンは、「自分より強い生き物などこの世に存在しない」と高言し、ため、大神ゼウスの妻ヘラの怒りを買ってしまう。ヘラはさそりを放ち、足を刺されたオリオンはその猛毒で命をとす。

そのオリオンを倒したさそりは、夏の星座の代表であり、その功績により星座として天に上げられた。のちに星座になったオリオンはすっかり苦手になったさそりと決して同じときに天に昇ろうとはしなかった。実際に両者は正反対の位置にあり、東の空からさそり座が出てくると、オリオン座はこそそと西の空に沈み、さそり座が西に沈むころ、ようやく東の空から姿を現すという。

あのひしゃく形の北斗七星で有名なおおぐま座は、どの季節でも北の夜空のどこかに、必ずみることができる星座である。そして、春の星座に挙げられる通り一番の見頃はやはり春である。神話によると、森にすむ美しいニンフ（精靈）のカリストは、月と狩猟の女神アルテミスの侍女を務めていた。ある日、宇宙を支配する大神でありながら、無類の女好きでもあるゼウスが、彼女の美しさに目をつけた。ゼウスは、アルテミスの姿に化けてカリストに近づき、契りを交わす。やがてカリストは、アルカスという男の子を出産するこれを知ったアルテミスは激怒し、カリストを醜く大きな熊の姿にかえてしまう。熊となったカリストは生まれたばかりの我が子を置いて、森の奥に姿を消してしまう。十五年の歳月が流れ、アルカスは一人前の狩人に成長していた。ある時、獲物を求めて森の中を歩いていたアルカスの目の前に一頭の熊が現れた。カリストである。まさかそれが自分の母親だと知らないアルカスは矢をつがえ熊の心臓に向けて狙いを定めた。これを天上から見ていたゼウスは、アルカスを子熊に変えて、親子の熊の尾をつかんで天上に放り投げ、星座にしたという。熊の尾が長いのは、その時に伸びたからだそうだ。

秋の星座のカシオペア座は、WまたはM字型に五個の星が並んでいることで知られる。一年中、北に空のどこかで見ることが出来る。エチオピアの王妃カシオペアが、娘のアンドロメダ王女の美しさを広言したが、この時、娘のことだけでなく、自分の美しさも自慢していた。軽率でうぬぼれの強い王妃に、彼女の死後に待っていたのは、ポセイドンら神々による制裁だった。なんと王妃は椅子に縛り付けられた姿で北の空に上げられ星座にされたのだった。さらに罰として、天をぐるぐる回りながら、海の下に降りて休息することも許されず、毎日一度、逆さまに吊り下げられて、ぶざまな姿をさらすという有様だったのである。

夜空を彩った星座は、ギリシャの詩人や哲学者、科学者などによって作られた。十五世紀にはじまった大航海時代も、星座の追加に拍車をかけた。そして、著名な天文学者たちの参入もあって最大時にはその数が百三十個にもなり天文学界に大混乱をきたした。結局1928年に開催された国際天文学連合総会で、星座は「八十八星座」と正式に決められたのである。

夜空を眺める機会を作るのも、星々を繋げて自分の星座を作るのも楽しいであろう。

講座 No.2 漢字の起源と古代文字の書写体験

講師 中村 薫

古代文字、例えば古代エジプト神聖文字や古代バビロニア楔形文字は、漢字に匹敵する長い期間使用された文字ではあるが、残念ながら今やそれらの文字の流れは文字を育んだ王朝の滅亡とともに断絶した。一方漢字は現在確認できるだけでも古代中国殷王朝以来三千数百年、王朝の誕生と滅亡を繰り返す中、字体を変えながらも今なおその命脈を保ち使用され続けて来た。そして漢字は摇籃の地中国のみならず日本を含み広く東アジア一帯の文化を担う共通文字媒体にもなった。時とともにその數たるや増加を繰り返し、異体字を含めると数万から十万の文字数を数える。この興味深い普遍的、発展的、神秘的漢字の始原の書体は総称して篆書体と呼ばれ、その内もっとも早期のものは亀甲や獸骨に刻された甲骨文字と呼ばれるものである。この甲骨文字は、興味深いことに甲骨文字は殷代に突如と現れ、その時すでに完成度の高いものであった事が知られている。この講座では、漢字の起源伝説や甲骨文の構成やその時代の学習と、甲骨文を書写体験することにより文字の造形性を確認したいと思います。さあ古代文字甲骨文を楽しく学びましょう。



漢字を発明したとされる伝説上の人物蒼頡像（山東省沂南後漢墓出土壁画）

講座No.4 身近な生物の不思議

講師 浅羽 宏

鶏の手羽先を食べたとき、出てきた骨にひきつけられ、鶏の骨はどんな形だろう？と思ったことはありませんか。私は初めて豚足入り沖縄そばを食べたとき、丼の中からきれいな骨が出てきて感激しました(1)。このような際、少し工夫すれば、骨を取り出して保存性の良い標本を作ることができます。冬の公園を散歩中、スジだけになった葉に出会ったことはないでしょうか。これは自然に残された葉脈ですが、簡単な操作で綺麗な葉脈標本（2）を作成できます。筆を使わず葉に字が書ける「ハガキ」の実験も、昔からやられていますが初めてやるとワクワクします。多くのマメにはデンブンが含まれ、植物はこれを利用して成長します。小学5年生はそれを確認する実験を行いますが、私達がやってもなかなか面白いです。白ネコと黒ネコから生まれた子ネコの毛色はどうなるでしょう？この原理を理解すると、ネコを違う目で楽しく眺めることができます。本講座では生物のもつ不思議と面白さを、身近な素材を用いて皆さんに楽しんでいただきます。



(1) ブタの右後肢の人差し指の骨



(2) ナンテンの葉脈標本

講座No.5 初めてのボイストレーニング＆歌声広場

講師 飯島 香織

声を出すことは健康にいい、誤嚥性肺炎の防止にもつながる、などといわれる一方で、声の出し方がわからない、自宅では大きな声が出せない、加齢とともに声が出てにくくなってきた気がするという声を耳にします。歌手は、体全身で声を出すトレーニングを何年も続けてステージに上がります。筋肉は鍛えれば何歳になっても成長するといわれており、オペラ歌手たちを見てみると年齢の割に若く見える方が非常に多いです。この講座では、筋肉の各部位に着目してトレーニングし、いろいろな歌に挑戦していただきます。私自身が、声楽家として学んできたことをふまえ、プロの歌手がどのように体を使って声を出しているかを、皆様にも体験していただきたいと思っています。これまでに合唱団、小中高等学校、音楽教室など様々な現場で、プロ・アマ含めて指導をして参りましたが、どのジャンルの方（ポップス歌手であろうと、ロック歌手であろうと、カラオケ愛好家であろうと）も、発声の基礎を身に着けると、格段に声がよく出るのを目の当たりにしました。皆様にも、いい発声を身に着け、気持ちよく声を出す経験をしていただければと思います。今回の講座で予定している曲目は「朧月夜」「夏は来ぬ」などの日本歌曲から「テネシーワルツ」「愛の讃歌」などの外国曲多数です。今はインターネットで音源や歌詞がご覧になれますので、皆様も、是非ご自宅で口ずさんでみてはいかがでしょうか。

講座No.6 朗読 “声出しクラブ”

講師 中野 たま美

「ア」私が受講生の皆さんに向かって発声します→「ア」声の貼り付けです。皆さんも、私の胸に向かって→「ア」声の貼り付け返信です。私と一人一人の皆さんとで次々に「ア」→「ア」のやり取りが行われます。これは私が今も受講している「楽しい舞台朗読」(正義昭先生)の講座から学んだ、最初の発声練習です。

声を出す楽しさを多くの方に知ってもらいたいと思い、今回「声出しクラブ」を発足しました。普段より少し大きな声で、顔を上げて声を出しましょ。なんだかすっきりするはずです。さらに、テキストに載っている名文を気分よく音読できます。楽しく音読しましょ。

お一人お一人の声質はみんな違います。それぞれの声に、人生の味があると思います。どんなお声に出会えるのかしら。今からワクワクしております。

次に声を出すことの「効果」を挙げておきます。

- (1)誤嚥予防 …… 喉の筋力を維持します
- (2)脳トレ …… 文字を目で追って声に出すという2つの作業を同時にします
- (3)深呼吸 …… 息をたっぷり吸ってから声を出します
- (4)ストレス解消 …… 声に出して名文のリズムに身を任せると、リラックスできます
- (5)コミュニケーション効果 …… みんなの発表を聞くことで様々な思いが生まれます

それでは、4月にお目にかかりましょう。お待ちしております。

講座No.7 現代アートとしての絵作りを体験しよう！

講師 蔵 隆幸

リペルアートとは、紙の上に黒色や透明な液体を塗り、それが乾かないうちに界面活性剤が入った絵の具を垂らすことで、偶然性のある独特なパターンが生まれる技法です。(図参照)



今回の講座では、主にこの技法を使って現代アートに迫ってみよう。という取り組みです。現代アートというと、偶然性やプロセスそのものが重要視されることが多く、例えば、ジャクソン・ポロックのドリッピング技法や、音楽作品にも、偶然の要素を取り入れた作品はあります。

したがって、偶然に生まれたものでも、それが意図的なプロセスの一部であり、制作者の感性や意図が反映されているのであれば、立派なアートと見なされる事が多いと言われています。

リペルアートは誰でも簡単に表現が出来る偶然性の連続で生まれる驚きの流紋で、心の内に眠っている感性を触発する絵画材料と言えるものです。この今までにない絵画材料を使うことで、新たな発見もあり、ワクワク感を持って絵作りが出来ることと思います。

講座No.8 自分を知ろう！ カラー＆アートセラピー

講師 しのだ みほ

「なぜかこの色が気になる」「いつも同じ色を選んでしまう」——そんな経験はありませんか？色には、私たちの心を映し出す不思議な力があります。何気なく選んだ色に、隠れた気持ちが表れていることも少なくありません。さらに、色は感情だけではなく、温度や重さの感覚、さらには時間の流れの感じ方にも影響を与えます。暖色は温もりや活力を、寒色は落ち着きや静けさをもたらし、明るい色は軽やかさを、深い色は安定感を与えます。また、色は脳の働きにも作用し、気分を整えたり、創造力を引き出すこともあります。こうした色彩の力を知ることで、日々の暮らしに活かせるヒントも見つかるでしょう。



この講座では、カラーカードを選んだり、クレヨンでテーマに沿って描きながら、自分の心と向き合います。子どものように楽しみながら色と触れ合うことで、「自分でも気づかなかつた気持ち」を見つけるかもしれません。上手に描くことが目的ではなく、たくさんの色に触れて新しい自分に出会えるかもしれません。色とアートを通じて、もっと自分を知る時間を共に過ごせることを楽しみにしています。

講座No.9 三浦按針と江戸初期のグローバル時代

講師 森 良和

昨年アメリカで配信された「SHOGUN 将軍」が、エミー賞やゴールデン・グローブ賞を受賞したのは記憶に新しいところです。本講座では、そこに登場する漂着したイギリス人航海士のモデルであるウィリアム・アダムス（三浦按針）を中心に、江戸初期の日本を当時の世界情勢との関連で見ていきます。三浦按針の実際の姿を知るとともに、当時の日本がいかに例外的なグローバル時代であったかを、画像やDVDなどを援用しながら分かりやすく解説していきます。歴史の壮大なロマンを楽しみましょう。

講座No.10 美術展誕生・舞台裏から楽しむアート鑑賞

講師 浜野 伸二

ルーヴル美術館に行かれた方は、さぞやダ・ヴィンチの「モナリザ」や「ニケの女神像」など必見の名作を堪能されたことでしょう。では、東京国立博物館には何をご覧に出かけられるでしょうか？「総合文化展」と呼ばれる常設展はそのだけで、特別展「阿修羅」や特別展「鳥獣戯画展」などの企画展を目当てに出かけられた方がほとんどではないでしょうか。

これは、戦後の大衆が旺盛に文化的刺激を求めることに対し、展覧会のジャンルではマスメディアがこれに応え、教育的側面よりもレジャーの一分野として経済性を備えた発展をさせてきたことに由来するものです。こうした歴史はバブル経済や新型コロナウイルスの流行など、さまざまな環境変化を経て、戦後80年が経過しても基本的構造は変わっていません。

逆に、こうした構造があるからこそ、日本では世界屈指の美術作品や、国宝・重要文化財がずらりと並ぶ展覧会が数多くの美術館で継続的に開かれるようになったのです。

この講座では、世界的に見ても特殊な日本の展覧会がどのようなテーマで、いつ、どこの美術館で、どのようなタイミングで誰が企画して実現しているのかを舞台裏から眺めていきます。この課程を通して、企画者目線での展覧会の楽しみ方に6回の講座を通して接していただくことで、いつの間にかアートに関する新たな見方を身につけている自分に気づいていただけることを目指します。

講座No.11 世界の国と人々～多様性の中で日本を考える～

講師 衛藤 秀三郎

現代はグローバルな社会です。米国のトランプ政権、ドジャースの大谷翔平、パリのファッショントレンドの活躍・・・日々のニュースには、必ず海外の話題が含まれます。街に出ればインバウンドの外国人旅行者に囲まれたり、コンビニに入ればベトナム人の店員の応対など、外国人、外国のことに対する接せずに一日を過ごすのは難しいくらい。

また、皆さんの中に、海外旅行の経験のある方も多いことでしょう。日本と違った風土や生活、そして外国人の立ち居振る舞いに興味を感じることも多いですね。私もこれまでの海外生活や経験を通じ、その国の土地柄、出会った人達との交流の中で感じたこと、考えたことなどが多く、みなさんと一緒に語り合ってみたいと思います。

外国人も日本人と同じ人間だから、同じようなところもある。ただ、そう思っていても実際は全く違った感じ方、考え方をしているかもしれない。共感と誤解。でも、それが面白いんですよね。先進国と発展途上国、両方の観点から考えてみますので、みなさんの積極的なご参加を期待しています。



＼2025年4月開講講座への多数のご応募ありがとうございました／

応募者数：737人

当選者数：280人

応募倍率：2.6倍



抽選会の様子（2025.2.1）